## 事例①「とよひらっぴーフェスティバル」

中高校生支援

札幌市平岸児童会館

### 事業の概要

〇札幌市の児童会館で実施している中高校生夜間利用【ふりーたいむ】では、バスケットボールやダンス、バンドなど幅広い活動が行われています。
　みんなで集まって何かをすることは楽しい。何かに集中する、真剣に取り組む（汗をかく）、共感する、表現する…【ふりーたいむ】は中高校生にとって、人格形成に重要なコミュニケーション能力を学ぶ場であり、日常の学校生活ではかかわることがない者同士が出会い、刺激を受けあうことができる居場所となっています。
〇このことに着目し、中高校生が集まる機会・場所がほしいと要望が出たことをきっかけに、平成23年度から豊平若者活動センターとの共催で、中高校生向けイベント 「とよひらっぴーフェスティバル」がはじまりました。

※中高校生夜間利用『ふりーたいむ』とは…
　札幌市児童会館では、週に2回（実施曜日は各館で異なる）、中学生は19時まで、高校生は21時まで利用ができます。平成18年度より一部で開設し、平成22年度より103館で実施。活動場所や仲間を求める中高校生の居場所となっています。
※『札幌市若者活動センター』は若者と地域を結ぶ拠点として、まちづくり活動やイベントへの参加をサポートします。講座の開設や情報提供などにより、若者の仲間づくりや交流の促進を行っています。

### 事業の具体的な内容

1)企画・事前準備
　実行委員会を立ち上げ、高校生、青年、職員が一同に集まり、どのようなプログラムにすると中高校生が参加しやすいか、あるいは参加意欲がわくのか等、参加者の気持ちになり企画を練り上げた。全体会議は当日までに５回行い、その他の担当をスポーツ・ステージ・バラエティに分け、それぞれ準備を進めました。
2）イベント前日
　スポーツ大会の準備・装飾などは、高校生と青年が大活躍。ライブの音楽器材設営は、出演する高校生バンドのメンバーが準備しました。
3）イベント当日
　オープニングは実行委員会の高校生が司会を務めました。バスケットボールは中学生８チーム、高校生６チーム、フットサルは中高生混合９チームが参加し、白熱した試合で大変盛り上がりました。

### 事業実施のポイント

・中高校生には、日常の中で、自分たちが主体的になれば、どんなことも児童会館で実現することが可能なのだというイメージをもたせます。
・青年ボランティア（児童会館卒業生）の理解・協力を日頃から大切にしています。青年が高校生をサポートし、高校生が青年になった時には次の世代の高校生をサポートします。利用者同士の運営サイクルの構築を意図的に行っています。
・大きなイベントだけではなく、音楽ライブやバスケットボール大会、クッキング（お好み焼きパーティーなど）など小さい事業を積み重ねます。イベントの規模が大きくなってもその積み上げが生かされ、参加意欲や中高校生が自ら企画し運営する力となります。

## 「児童館ガイドライン」の「活動内容」ごとの事業の紹介(主なもの)

②　子どもの居場所の提供

高校生が卒業後、次の活動場所となるように若者活動センターで事業を実施しました。また、児童会館は小学生が行く場所というイメージがありますが、中高校生の想いを具現化することで中高校生にとっても児童会館はさまざまなことができる場所・居場所であることを伝えることができました。

③　保護者の子育て支援

この活動を中高校生と積み上げる中で信頼関係を築き、さまざまな問題に対応しています。特に問題を抱えている中高校生については積極的に実行委員になるよう、または、イベントに参加するように促しました。このイベントの効果だけではありませんが、保護者からの相談も増え、家庭における「頼みの綱」が児童会館になっているケースも少なくありません。音楽ライブについては、保護者や学校の先生の来場もあり、中高校生が児童会館でどのような活動をしているかを実際に見てもらうことで、保護者の理解にもつながっています。

⑧　配慮を必要とする子どもの対応

来館対象となる生徒の中には、学校に行けない、学校を辞めてしまった生徒、保護者と上手くいっていない家庭など様々な背景があります。日常の運営でも同様ですが、そのような生徒にこそ居場所が必要です。家庭・学校とも連携を取りながら、このような事業は、学校に行かないことで断ち消えてしまった同世代との交流をもつ機会という役割も担っています。

## 利用者の声など

・中学生からは「早く高校生になって、21時まで使えるようになりたい」と声があがっています。また、実行委員会の活動の様子を見て同様の声が多数ありました。
・保護者からも好評で、「自分の子どもが大きくなった時に参加させたい」また、「面白そうだね」と嬉しいご意見を多数いただきました。
・実行委員会のメンバーはこの事業をとおして、自分たちのやりたいことを実現する主体性を身に付け、児童会館の強力な支援者となってきました。幼児向け体操の作詞・作曲や子育てサロンのスタッフなど幼児・小学生対象事業のサポートを進んで行ってくれるようになっています。

## 児童館のプロフィール

名　　称：札幌市平岸児童会館
設置主体：札幌市
運営主体（札幌市児童会館指定管理者）
　　：財団法人　札幌市青少年女性活動協会
開設年月：昭和５７年１１月
開設時間：8:45～18:00
　　（日曜日・祝日・年末年始を除く）
　　火・木曜日は中学生19:00、高校生21:00まで
所 在 地 ：札幌市豊平区平岸３条９丁目１５－２２
紹 介 等 ：http://www.g-kan.syaa.jp/

# 事例②「チーム東中田っ子」

ボランティアの育成

仙台市東四郎丸児童館

## 事業の概要

〇チーム東中田っ子は、東中田地区の3つの小学校の小学生、中学生、高校生の子ども達のボランティアチームです。平成１９年「子どものための児童館とNPOとの協働事業」を機に結成され、現在小学３年生から高校2年生までの20名で活動しています。
チーム東中田っ子が主体となり、公園でのオカリナコンサートや、ピカソの日の創作活動、東北福祉大学の学園祭への参加、福祉施設訪問等色々なイベントを企画し運営します。子どもの視点を内容に反映させ、子ども達の考えを実現させるために、学校、地域の団体や町内会、NPOなど地域がつながり協力してくれています。
〇更に、「かにっことうちゃんs’」（当児童館のお父さん達のチーム）のイベントの手伝いや、地域の市民まつりにも積極的に参加し活躍の場を増やしています。
　また、大学の学園祭や児童館での活動報告会など、自分達の活動を広く知ってもらう機会を設けています。

## 事業の具体的な内容

　チーム東中田っ子活動のコンセプトは、「手をつなごうあなたとわたしin東中田」です。そして、毎年テーマを設け活動を展開しています。具体的には、納涼祭で自分達で作成した「手作りみこし」をかつぎ、町内をねり歩き、福祉施設を訪問し高齢者の方たちと交流したり、「かにっことうちゃんs’　」とコラボレーションし、太鼓体験等を実施しています。
　子どもの自発的参加と意欲を更に育てるために、コアメンバー中心に活動を進進めています。コアメンバーは、初年度から活動している5名（中学2年から高校2年）で構成し、コア会議で活動の方向性を決定します。それをベースに、メンバー全員でテーマや具体的な内容を検討し決めていきます。
　ミーティングは月1～2回土曜日の午後に設け、ミーティングの進行もコアメンバーが交代で行い、メンバーの意見を引き出します。異年齢の集団の中、自分とは違う他メンバーの意見等を聞くことで、自分の視野が広がるようです。少数意見も切り捨てず検討し全員の意思を一つにします。自分の意見を大切にされることが、次への発言、意欲につながっているようです。

## 事業実施のポイント

・毎年新メンバーを募集しチーム東中田っ子の世代の幅を広げています。
・ボランティアのメンバーが活動を意欲的に継続して行うために、以下のことを実行しています。
　①自分の意見が活動に反映されていること。
　②担当をつけ与えられた役割を責任を持ち行うこと。
　③イベント等終了後は必ず振り返りを行い、反省は次へ生かすようにすること。
　児童館スタッフは、チーム東中田っ子の意向をできるだけ実現できるよう、協力団体を探し依頼する等のサポートを行っています。
　また、地域の祭にも参加し、他団体の手伝いをするなど、児童館以外の場所でも活動の場を設け、地域に貢献しています。
　地域社会で活動し地域に認めてもらうことが、活動の継続へとつながっているようです。

## 「児童館ガイドライン」の「活動内容」ごとの事業の紹介(主なもの)

⑤　地域の健全育成の環境づくり

子どもが中心となり地域の中で何かをする時、地域の理解と協力が不可欠です。そこで、チーム東中田っ子を応援してくれる「地域まるごと応援隊」を結成しました。

地域まるごと応援隊とは、小・中学校や町内会、東中田地域の福祉団体、にこにこ児童館応援隊（当児童館の運営を支援）の集団です。子ども達や地域のことをよく知る組織の協力は、何よりも心強く思います。

学校や町内会等とは日頃より館長が足を運び連携を深めています。他の団体とも日頃から顔を合わせ「伝え合う雑談」をすることで連携を強めています。

イベントの広報は学校を通し全校児童に配布してもらい、また、町内会回覧で地域へ向けて発信しています。１２月に地域まるごと応援隊や協力してくれた方を活動報告会に招待し、チーム東中田っ子が自分達で活動の様子や感想を発表します。

⑥　ボランティアの育成と活動

チーム東中田っ子は、学校枠を越えた子ども達のチームで、活動を通し異年齢の仲間作りの場となっています。同じ目標・目的で活動することで、「仲間意識」や「つながり」が日に日に強くなっているようです。

コアメンバーには、リーダーシップが備わってきたようで、他のメンバーを引っ張っていこうとする姿が見られます。そして、年下のメンバーは、コアメンバーの姿から「チーム東中田っ子像」を学んでいます。

チーム東中田っ子の活動を通し普段関わりがあまりない大学生や福祉施設の方と交流を持つことができ、「人とのつながり」を強く感じとっているようです。

また、自分達の企画したイベントを実現できた達成感や充実感が更なる意欲へと繋がっています。

## 利用者の声など

・人前で堂々と発言できるようになったと思います。（チーム東中田っ子）

・自分の意見や人の意見を比べて、それをまとめて協力して実現できるようになりました。（チーム東中田っ子）

・学校以外の場でいろいろな歳の人達と協力して活動していくことはとても良い成長になったと思います。（保護者）

## 児童館のプロフィール

名　　称：仙台市東四郎丸児童館
設置主体：仙台市
運営主体：NPO法人　FOR YOU　にこにこの家
開設年月：平成１７年４月
開設時間：月～金　9:00～19:15
　　学校休業日　月～金 8:00～19:15
　　土9:00～17:00
所 在 地：仙台市太白区四郎丸字大宮26-10
紹 介 等：http://www.k4.dion.ne.jp/~nikoniko

# 事例③「みんなであそぼう「Ｓケン」」

身体を動かす遊び

豊島区立千早児童館

## 事業の概要

〇豊島区のいくつかの児童館ではいろいろな形で集団遊びに取り組んでいます。
異年齢で遊ぶ機会が少なく、ゲーム機中心の遊びになりつつある今の子どもたちに、遊びの楽しさを伝え、男女・学年の枠を超えて体を動かし遊ぶ事で、一定のルール、チームワーク、相手への思いやり、体力なども身につけてほしいと考えています。セーフコミュニティ国際認定都市として様々な取り組みをしている区として、遊びを通して敏捷性を高め、危険回避能力アップにつながるＳケンなどの集団遊びは、有意義な取り組みといえます。
〇千早児童館では、月に２～３回、対象を１～３年生と４～６年生とに時間を分けて実施しています。今年度は、「しっぽとり（しっぽを取り合う対戦型おにごっこ）」→「ろくむし」→「ユニホッケー」→「Ｓケン」と段階を追ってよりハードな遊びへとつなげていきました。

## 事業の具体的な内容

〇プログラム開始当時は、職員が中心でルールを教えていましたが、今では遊びの楽しさを体験した子どもたちが自主的に、初めてＳケンをやる子にルールを教える役、コーチ役、子ども審判、タイムキーパーなど役割を買って出てくれるようになりました。Ｓケンでは安全に遊ぶために、職員が２名で審判につきますが、上級生の子どもたちには子ども審判を任せ、自分達でも危険な行為を理解しセルフジャッジができるようにしています。準備や片付けも自分達でできる部分は、自主的に手伝ってくれます。
〇チーム分けも、好きな人同士でなく、力の差のないチーム同士が戦った方がおもしろいという事を体感できるよう工夫しています。学年・体格などを考慮し、最初は少ない人数から始めて少しずつ慣らしていきます。

【Ｓケンを通して得られる効果】
・遊びを通して自然に体が鍛えられる
・男女・学年を超えてみんなが楽しく遊ぶ
・思いやりの心、「おたがいさまの気持ち」が育つ
・仲間意識がでてきて個々の友達の良さを認めあえる
・友達にひどい言葉を言わなくなる
・ルールを守ることができる
・手加減ができる
・人や物にあたらず自分で乗り越える力がつく
・裸足で遊び足の裏が鍛えられる
・痛みに強くなる
などなど、遊びを通して子どもたちが成長していくのがわかります。

**かんたん！Ｓケン基本ルール**
（Ｓの形と、休憩所を２ヶ所つくります）
①２チームにわかれる。
②自分の陣地から出たらケンケンで進む。
（２つの陣地と休憩所では両足をついてＯＫ）
③両足をついたり、倒れたりしたらアウト。
④相手の陣地にある宝をとって、自分の陣地の宝置き場に置けば勝ち！
⑤うしろから押す、引くはだめ。
（正面から勝負する）

## 事業実施のポイント

・「Ｓケン」は危険がともなう遊びなので、職員のいないところでは、絶対に遊ばない約束になっています。スタート前の戦う練習も禁止です。「暴言・暴力・ルール違反・危険行為」は、退場になります。
・独自のルールは、毎年子どもたちの状態を確認しながら、よりわかりやすく安全で、初めてでも参加しやすいように少しずつ変えてきています。今年度から、初心者は何度でも復活できる「命無限ルール」をつくりました。これにより、初心者も果敢に挑戦する姿が増えました。

## 「児童館ガイドライン」の活動内容ごとの事業の紹介(主なもの)

②　子どもの居場所の提供

集団遊びの楽しさを実感することで、今度はその楽しさを他の友達にも伝えたくなり、自然と仲間が増えていきます。児童館が遊びの発信基地になり、人が人を呼び、いつしか大ブームになることもあります。新しい仲間が加わってくると、子どもたちの人間関係が広く見えてくることもあります。お互いの良さを認め合えるようになり、自然と異年齢で交流ができるようになっていきます。このようなことを通して、児童館がより居心地のよい居場所として認められていくように感じます。

また、職員が子どもたちと本気で遊びの空間を共有することで、小さな成長を気づき認めてあげることができます。それが、子どもたちとの信頼関係を築くことにつながっていきます。

⑤　地域の健全育成の環境づくり

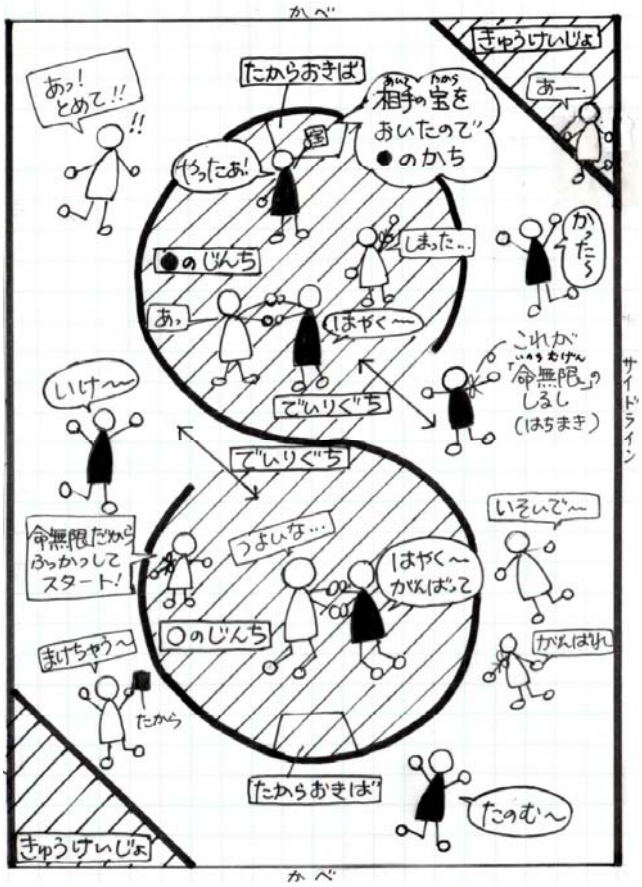
保護者の方が子どものお迎えにいらした時など、集団遊びでの子どもたちの様子も見ていただけるよう声がけをし、子どもたちの頑張っている姿、成長ぶりを保護者の方に伝えています。

## 利用者の声など

・Ｓケンのシーズンになると、「今日Ｓケンできる？」が児童館に来た時の合言葉のようになっています。１０人以上メンバーを集めると、Ｓケンができます。必死に声をかけ仲間を集めてきます。集まると「１０人集まったよー！」と、喜んで飛んでいきます。

・子どもたちが楽しいと感じたことは、家でも話題にしているようです。保護者の方から、「子どもがＳケンをとても楽しみにしています。今度見に来てもいいですか？」などと、声をかけていただくこともあります。

・実際にＳケンの子ども達の様子を見ていただいた方からは、「子どもたちが活き活きとしていて楽しそうだった。」「怪我をするからとやめさせるのではなく、どうやったら怪我をしないか体験できるいい機会になる。」といった反応もありました。




## 児童館のプロフィール

名　　称　：豊島区立千早児童館
設置主体　：豊島区
運営主体　：豊島区
開設年月　：昭和６０年５月
開設時間　：月～金 10:00～18:00　土 9:00～17:00
所 在 地　：豊島区千早3-13-9
紹 介 等　：http://www.city.toshima.lg.jp/shisetsu/shisetsu_kodomo/005663.html

豊島区広報課
イメージキャラクター
としまななまる